

令和 6 年度 事業評価書				事業主体		06700000		経営企画部 秘書広報課		
会計区分	01	一般会計		款項目	02	総務費	01	総務管理費	06	企画費
大事業	E1	6 つのまちづくり宣言	地域再生	K P I	あい愛バス利用者数				目標値	120,000人
		目指す姿	地域の魅力をアップデート！		住みよいまちだと感じる人の割合					80.0%
中事業	04	主要な取り組み	みんなの活動を、みんなで支える							
小事業	05	シティプロモーション事業		目標年度	令和6年度					



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	市民の情報収集手段は、新聞やテレビ、広報紙などはもちろん、スマートフォンなどの情報通信機器の普及が急速に進んだことにより、TwitterやLINE、InstagramなどのSNSを活用する人が増えてきている。こうしたことから、市職員は従来の広報媒体の活用を図る一方、これまでの手法にとらわれることのない、広報媒体の特性や広報の目的に沿った、より効果的な情報発信の手段を選択できるようになる必要がある。					
対 象	市職員および市民・市内事業者					
目 的	市職員の広報マインドおよび市民・市内事業者のシビックプライドの醸成					
概 要	AIを活用した市内のイベント情報集約サイトを運営。 市制70周年を記念し、R5年度に制作した70周年記念商品の展開。 ・市制70周年記念商品のメディア向け発表会を実施 ・市制70周年記念商品のポップアップストアを実施 市広報戦略の推進に向け、広報マインドを醸成するための職員研修を実施。 ・広報マインドを醸成するための職員研修の実施 ・緊急事案発生時の危機管理サポート					
事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06	
	予算額	12,513	10,176	9,476	16,576	8,790
	決算額	12,410	10,063	9,426	15,895	8,591
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		1,501 /				194



実 績	実 績	業務委託2件 シティプロモーション事業 ○市制70周年記念商品関連および70周年記念関連 ・市制施行70周年記念商品発表会の実施（4/25） ・市制施行70周年記念商品ポップアップストアの実施 2回 道の駅みのかもおんさい館内（4/26～5/5） 70周年記念式典会場内（11/3） ・市制施行70周年記念関連リリースの作成 3回 ・メディア露出 新聞46、TV2、WEB481、計 529件 ○危機事案発生時のサポート 計4件
	効 果	市制施行70周年の記念品の発売やそれに関連するポップアップストアをオープン（ゴールデンウィークと70周年記念式典の2回）し、それに伴ったメディアへのリリースも実施することができ、市制施行70周年に対する市民の機運を高めることができた。また、イベント情報集約サイトの本格運用も始まり、毎月の平均訪問者数が昨年の約2倍となり、市民の情報取得ツールの一つになりつつあると考える。加えて、不祥事等の事案が発生した際も、契約事業者へのセカンドオピニオンにより市の対応が適切かつ迅速に対応することができ、市への影響を最小限に抑えることができた。と考える。



アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	メディア露出（TV・新聞・雑誌・WEB等）に伴う広告換算額（万円）	目標値	13,000	14,000	15,000	16,000	16,000
		実績値	38,955	22,309	23,582	28,446	18,235



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	美濃加茂市に愛着や誇りを感じている人の割合（％） 「とても感じている」「どちらかといえば感じている」の合計	目標値				63	64
		実績値				68.8	72.5

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	過去の事業内容と違い令和6年度は70周年記念に関連する事業がメインであったため、当該事業に関するメディアのリリースも前年に比べ減少した。また、新聞およびWEBのメディア露出は昨年度に比べ増加したが、テレビに関しては、テーマが70周年関連に限られていたため、情報の需要が低く、露出も少なかったため。 令和7年度からは市の方針や取り組みについて市民に理解してもらうための催しなどを行う事業内容とするため、活動指標を変更する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	テレビの露出は減ったが、新聞、WEBは前年度を上回っており、それらの露出により、市民が70周年記念関連の情報を知る機会が増えたことや、市内事業者による記念商品が販売されたことで、市民のシビックプライドの醸成につながったのではないかと考えられる。また、70周年という節目だったということもあり、市民の市に対する誇りや愛着が強くなったと考えられる。
	実績からR07年度の 事業の方向性	市民が市政運営に対し関心をもってもらい、市民が主体的・能動的にまちづくり、市政運営に関わる意識の醸成を進める。そのため、市の方針や政策について市民の共通理解を得られる機会を創出し、政策方針等に係る市民の関心と理解を深めるとともに、市の政策を通じて「暮らしやすさ」等を市外にも広く周知・PRし、まちの魅力発信を行う。また、令和8年度の広報戦略の改定にむけたアンケートや実績の取りまとめ等を進める。